

学術企画

JART 放射線機器管理士分科会, JSRT 標準・規格委員会 『放射線医療機器の安全管理の“これまで”と“これから”』

司会 小田原循環器病院 今井 宜雄
座長 国立がん研究センター東病院 村松 禎久
座長 東京北医療センター 菊地 克彦
座長 帝京大学 小林 隆幸
座長 帝京大学医療技術学部 齋藤 祐樹

11月2日(土)
10:00~11:50
第2会場

本企画は、JARTの放射線機器管理士分科会とJSRTの標準・規格委員会のコラボレーション企画です。放射線機器管理士分科会は実地での管理運用を主導し、標準・規格委員会は標準規格・ガイドラインの協議・策定に参画し、いずれも医療機器の安全管理を維持・推進する啓発活動を行ってきました。

本企画では、医療機器の安全管理のDXに向けて、これまでの活動を整理するとともに、実地的な管理がより円滑に実施できる環境作りを議論します。プログラムは教育講演とフォーラムから構成されます。教育講演は青木郁香先生(医療機器センター)より、医療機器を如何に安全に使うかをご教示いただきます。フォーラムでは、中村泰彦(純真学園)より法制化の経緯、加藤豊幸(九州大学)よりホームメイドアプリ、太田博之(国立がん研究センター東病院)よりレディメイドアプリを利用した実地検証、そして坂本博(東北大学)よりICTでつなぐ機器管理についてお話いただき、団体・規格の共創で医療機器の安全管理を次世代に繋ぐことを浮き彫りにします。

なお、司会・座長は、今井宜雄(小田原循環器病院)、小林隆幸(帝京大学)、齋藤祐樹(帝京大学)、菊地克彦(東京北医療センター)、村松禎久(国立がん研究センター東病院)が順に務めます。

講師



青木 郁香 中村 泰彦 加藤 豊幸 太田 博之 坂本 博

JART 国際委員会, JSRT 国際戦略委員会・アジア放射線技術教育支援特別委員会 『JART・JSRTの国際的な取り組みについて』

司会 豊田厚生病院 柴田 英輝
司会 東京大学医学部附属病院 岩永 秀幸

11月2日(土)
14:40~16:00
第5会場

- ① JARTの国際戦略と国際委員会の取り組み
JART's international strategy and international committee initiatives
新潟医療福祉大学 児玉 直樹
- ② 日本放射線技術学会が考える国際化支援
Globalization support envisioned of the Japan Society of Radiological Technology
東京大学医学部附属病院 岩永 秀幸
- ③ 放射線技術学教育のアジア展開
Advancing radiological technology education in Asia: for better health care and people's well-being
福島県立医科大学 山品 博子

本企画では、JART児玉副会長が1962年に設立された世界放射線技師会(ISRRT: WHOから認めたNGO)を通じたJARTの国際戦略と国際交流の推進について概説し、また、将来的な取り組みについても言及していただく予定です。

JSRTからは、今まで行ってきた国際交流活動とその成果について岩永国際戦略委員長より、国外に行くチャンスの重要性やライフデザインについての興味深い話をしていただきます。

また、JSRTが進めているアジア放射線技術教育支援特別委員会の活動について山品委員長が、2022年度から始まったラオス国への放射線教育支援の現状を報告します。そして、日本の診療放射線技師による放射線に関する技術指導が、今後のアジア地域の医療の発展に寄与する可能性についても言及してまいります。

少しでも国際化に興味がある方は会場に足を運んでみてください、お待ちしております。

司会



柴田 英輝 岩永 秀幸

JSRT 核医学部会 『現場で診断に寄与する撮像技術』

司会 香川大学医学部附属病院 門田 敏秀
司会 島根大学医学部附属病院 矢田 伸広

11月2日(土)
13:10~14:30
第5会場

核医学技術を学び、明日の臨床検査に活用できる学術企画です!

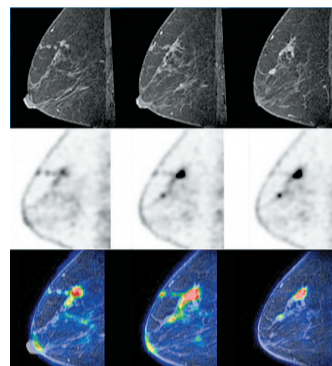
小室敦司先生には、心筋血流シンチグラフィ検査において、スムージング処理を行う前に心外集積をマスクアウトすることで心外集積による部分容積効果の影響を抑制する効果が得られ、特に下壁の診断評価の改善が期待できる心外集積抑制法をご報告いただきます。

桃井理紗先生には、全身用PET/CT装置を用いた腹臥位乳房検査の確立のために、呼吸同期や分解能の違いと画像との関係から最適な画像再構成条件の考え方、さらに検査時の補助具、ポジショニングの改良、および運用方法についてご報告いただきます。

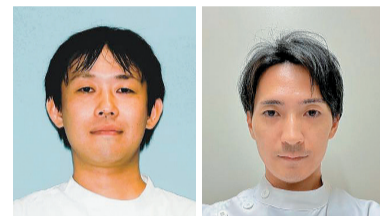
最後に宮井将宏先生には、センチネルリンパ節シンチグラフィ検査に必要な知識と技術として、センチネルノードコンセプト、放射性医薬品の特徴、および検査方法についてご報告いただくとともに、婦人科領域でのセンチネルリンパ節シンチグラフィ検査をご紹介します。

皆様、ぜひディスカッションしましょう!

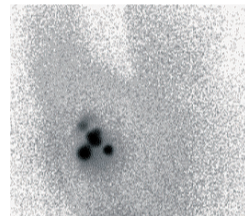
ケースライド



上段から造影 MRI, 腹臥位 PET, 融合画像



小室 敦司 宮井 将宏



右乳癌のセンチネルリンパ節シンチグラフィ

JART 放射線被ばく相談員分科会, JART 医療被ばく安全管理委員会, JSRT 放射線防護部会 『小児股関節生殖腺シールドの廃止に向けて』

司会 神戸常盤大学 木村 英理
司会 中央医療技術専門学校 平松 雅樹

11月2日(土)
15:10~16:30
第2会場

- ① 小児股関節生殖腺シールドの廃止に向けた動向 金沢大学 松原 孝祐
- ② 実際に取り組んでいる施設からの報告① ベルランド総合病院 鈴木 賢昭
- ③ 実際に取り組んでいる施設からの報告② 上尾中央総合病院 佐々木 健
- ④ 小児の股関節撮影における生殖腺シールドの取りやめに向けて
国際医療福祉大学成田病院 五十嵐 隆元

米国医学物理学会(AAPM)や米国放射線学会(ACR)、米国放射線防護審議会(NCRP)の生殖腺防護の継続中止の勧告を受け、世界的に生殖腺シールドの廃止に向けた動きが高まっています。日本においても、2020年に日本放射線技術学会放射線防護部会に「小児股関節撮影における生殖腺防護に関する検討班」が設置され、2021年には第49回日本放射線技術学会秋季学術大会および第37回日本診療放射線技師学術大会において、両団体合同でシンポジウムを開催し、生殖腺シールドの廃止について議論を重ねてきました。しかし、長年の慣習を止めることや医療従事者間のコンセンサス、患者さん(または患児の保護者)への説明など、課題は依然として多く残されています。

本シンポジウムでは、JART医療被ばく安全管理委員会、JSRT放射線防護委員会、JSRT放射線防護部会の3団体より、これまでの動向や実際に取り組んでいる施設からの報告を踏まえ、生殖腺シールドの廃止に向けた具体的な方策を、会場の皆様と共に考えていきたいと思っております。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

司会



木村 英理 平松 雅樹